

# ハーモニ



## (第2号)

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会  
 電話 22 - 2212 FAX22 - 3910 メール kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

数字で実感！下田の少子化！

全国的に『少子化』が課題として叫ばれています。  
 下田市はどうなっているのでしょうか？

年齢階層別人口の推移（国勢調査）

(人：%)

調査年	人口	0歳～14歳		15歳～64歳		65歳以上	
1980 (S55)	31,007	6,721	21.7	20,519	66.2	3,767	12.1
1985 (S60)	30,209	5,857	19.4	20,069	66.4	4,283	14.2
1990 (H 2)	30,081	4,786	15.9	20,176	67.1	5,119	17.0
1995 (H 7)	29,103	4,041	13.9	19,112	65.7	5,950	20.4
2000 (H12)	27,798	3,515	12.7	17,411	62.6	6,872	24.7

14歳以下の人口がどんどん減っているよ！

21.7% 12.7%

反対に65歳以上の人口は増加しているね！

12.1% 24.7%

下田でも少子・高齢化は確実に進んでいるんだ！



児童・生徒・園児・出生数の推移

	小学校	中学校	幼稚園	出生数
1975 (S50)	2,814	1,399	488	477
1980 (S55)	3,025	1,279	491	350
1985 (S60)	2,535	1,450	372	277
1990 (H 2)	1,918	1,211	290	248
1995 (H 7)	1,714	901	183	223
2000 (H12)	1,375	804	140	221
2005 (H17)	1,253	651	146	183

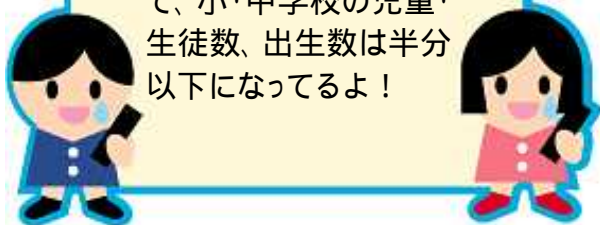
最近、少子化を取り上げるニュースに「合計特殊出生率」という言葉がよく出てきます。

### 「合計特殊出生率」ってなに？

これは、一人の女性が一生に平均何人の子供を産むかを示す数値で、次の世代につながる人口再生産の程度を大まかに示すものです。合計特殊出生率は、2.08で人口の増減がない状態が保たれるといわれています。

日本では、第二次ベビーブーム期、昭和48年の2.14から低下に転じ、平成16年には1.29（全国平均）となっています。下田市は平成14年で1.47となっています。

昭和50年当時と比べて、小・中学校の児童・生徒数、出生数は半分以下になってるよ！



# - 少子化がどんどん進むなかで、私たちにできることは？！ -

## 男女共同参画 ちょこっとインタビュー

今回は、子育て支援活動に向けて産声を上げたばかりの子育てボランティアグループ「しもだ子育て応援隊」代表の荒井さんにお話を伺いました。

「しもだ子育て応援隊ぽっぽ」代表・荒井福美さん

### 「ぽっぽ」ってどんなグループ？

「私たちにできることがあったら、子育てに手を差し伸べたい。」  
「下田が少しでも子育てがしやすいまちになって欲しい。」  
子育てボランティアグループ「しもだ子育て応援隊ぽっぽ」は、そんな思いを持った人が集まっています。



### どんなきっかけでできたの？

昨年6月に開催された社会福祉協議会主催「子育てボランティア養成講座」の修了生が中心となって、「せっかく学んだことを活かしたいね。」と相談したことが始まりです。  
そこで、「楽しく活動していくならみんなでグループを作って頑張ろうよ。」ということでこのグループができました。

### どんな支援を考えていますか？

『講演会やイベント等の託児を引き受けて、子育て中の人に“自分育ち”の時間をあげたいね』『短時間の託児サービスをして、子育て中の人を支援したいね』『できれば“子育てサロン”を実現して、子供も大人も交流し合いたいね』などなど・・・  
やりたいことはいっぱいあります。そのため、少しずつ研修や経験を積むための定期的な話し合いや学習会も持つ予定です。



### 「私も参加したい」と思った方は？

ぜひ一緒に活動してください。少子化が加速しています。子育てに悩むお父さん・お母さんが増えています。ちょっとした支援が、子供の命を救ったり、親の安らぎになったりします。

今こそボランティアの力が必要です。声をかけてください。

皆さんの参加、お待ちしております！

「しもだ子育て応援隊ぽっぽ」への照会、ボランティア活動の問い合わせ、お申し込み  
社会福祉法人下田市社会福祉協議会（下田市総合福祉会館内） 電話 22 - 3294



## 輝いています！

前朝日小学校 PTA 会長 かとう たかこ 加藤 誉子 さん

今回紹介するきらり輝いている女性は、前朝日小学校 PTA 会長の加藤誉子さんです。PTA 活動への参加は女性が中心なのに、なぜか会長は男性が“普通”なんです。そんな中で、女性で PTA 会長をされた加藤さんにお話を伺いました。

Q: 小学校の PTA 会長さん、珍しいですね！

「朝日小学校では、一昨年に初めて女性が会長になりました。私は 2 人目なんですよ。」

Q: どういう経過で会長になられたんですか？

「朝日小学校では、5 年で副会長、6 年で会長になります。5 年になるとき副会長がなかなか決まらなくて、そのとき『やっちゃんえ！』と引き受けてしまいました。」



Q: 女性であることで、困ったことや悩んだことはないですか？

「まったくありません。選考の経過もわかってもらっていたし、母親のネットワークもあったのでとても協力してもらいました。出る機会は多かったですが、家族みんなで助け合って役割を分担しあうことができたのでなんとかできました。」



Q: 女性であることで、よかったと思うことはありますか？

「たくさんありましたよ。入学時から女性は P T A 活動に参加しているし、母親のつながりもあるので P T A 活動の内容が細かくわかっています。また、子供や家庭のつながりで、地域の様子も知っています。だから、問題もよくわかるし、変えようという真剣さが違います。『役員は初めて』という男の人が突然上に立っても、内容や活動の問題点まではよくわからないのが本音ではないでしょうか？」

Q: 特に変えたかったことはありますか？

「家庭環境が多様化し、少子化で子供が減っていく中で、役員への負担が大きくなっています。アンケート調査などを行って役員の見直し、役割の軽減、全員参加など、役員への在り方を変えたかったです。でも、学校に関わるって、結構楽しいことが多いんですよ。」



Q: 女性の PTA 会長への就任についてどう思います？

「それも大切ですが、男性の参加も大切だと思います。過去には、男性の方が学年役員や家庭教育学級をやっていただき大変助かりました。こういうことが普通になればいいな、と思いました。これからは、男性とか女性とかではなく、参加できる人が、低学年から役員に参加できるような環境づくりが大切だと思います。」

【取材後記】今回インタビューさせていただいた加藤さん。力まず、背伸びせず、とても自然体。でも自分の考えをしっかり持っている印象でした。男性の中に飛び込むことは困難なはず、という思い込みで取材に伺いましたが、やや拍子抜け。「男女共同参画」って、難しいことではなく、実はちょっとした意識の問題なんですね。

# ドメスティック・バイオレンス=夫や恋人・パートナーからの暴力=

夫や恋人・パートナーからの暴力は犯罪です。

あなただけではありません。女性の約5人に1人は被害を受けています。(内閣府調査)

殴る・蹴るだけが暴力ではありません。

ほとんどのDVはさまざまな暴力が複雑に絡み合っています。

たとえば・・・

離婚してやる  
女のくせに生意気だ  
誰のおかげで食えるんだ  
おまえはバカだ



暴力をふるわれて  
いい人などいない

家事もまともに

できないくせに

口答えするな

殴られたいのか

経済的には

生活費を渡さない

働かない

使途を細かくチェックする

身体的には

殴るふりをする  
髪を引っ張る  
物を投げつける  
包丁を突きつける  
大きな音をたてる

性的には

セックスを強要する  
避妊に協力しない  
ポルノ雑誌を  
見せつける

他にも・・・

無視する  
大事なものを捨てる・壊す  
人間関係・行動を監視する  
実家や友人とのつきあいを制限する  
人前で侮辱する

## ひとりで悩まないで相談してください

女性を取り巻く暴力の相談窓口です。私たちがサポートします。どうぞ、お電話ください。

### 県女性相談センター(配偶者暴力相談支援センター)

DVに関する相談を受付ます。緊急の場合、暴力から逃れるための一時的な保護の相談に応じます。

054-286-9217 (年末年始・祝日を除く月～日 9:00～20:00)

### 緊急のときは迷わず警察110番へ

### 県男女共同参画センターあざれあ相談室

DVを含め女性が抱える様々な悩みを女性の相談員・弁護士・精神科医が受け付けています。

0558-23-7879 (年末年始、祝日を除く月～金 9:00～16:00 あざれあへ転送。)

< 予約制専門相談(無料) > 電話相談ご予約ください。

弁護士(毎月2回火曜) 精神科医(奇数月第3金曜) DV(毎週月・木曜) 面接相談(毎週水曜)



今、DVはおとなの間だけの問題ではありません。中高生、大学生など未成年の間でも起きています。これらは『デートDV』と言われてますが、まだ十分に認識されていません。